

### ○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ただいま議長より発言の許可をいただきましたので、これから私の一般質問をさせていただきます。

今回一般質問に先立ち、通告いたしましたのは、大きなテーマとしては新しいまちづくりについてであります。まちづくりは、やはり人づくりが大事であります。人なくしてはまちの形成はありません。また、成り立つものでもありません。そこに住んでいる人たちの安全・安心を考え、守っていくには、議会と行政の責任は重大です。

さて、今回の一般質問は、武雄町まちづくり協議会が出していました要望について何点か、男女共同参画の意識づくりで、特にDV防止対策についてお尋ねをします。地域の安心・安全ではインフルエンザ、また、新幹線、戊辰の役、市民病院問題と質問を続けてまいりたいと思います。

武雄町まちづくり協議会では、武雄市からいただきました協働まちづくり地域交付金を活用して桜山の散策路整備を行いました。これがそのときの写真であります。（写真を示す）

理事を中心といたしまして、実行委員会を組織して、約半年間かけて計画立案をし、ついに10月から11月の中旬をめどに、完成を目標に実施作業が行われました。限られた予算の中でコンクリート打ち、そして道づくり、また案内板、説明等、それから休憩所、また散策路コースの案内表示を整備いたしました。いずれもこれらは協議会の役員の方や、そして地元の町民、ボランティアの皆様で桜山公園が地元住民の憩いの場として親しまれることを願ったのであります。

これもそのときの一場面であります。（写真を示す）何人かここにおいでの方たちも、それこそ長靴を履いて生コンをピシャッと浴びながら、汗ふるふる、次の日は動き切らんごとなるまで頑張っていたし、区長さんなどは、新町の区長さんも、もちろんそうですが、川良の区長さん、いろんな区長さん、また公民館長さん、本当にもう80近い方たちがスコップを持ったり、金づちを持ったりして汗を流しておられました。その完成を祝って、11月29日に桜山歩こう会がまちづくり協議会の主催で開催をされました。市長も公務多忙の中、合間を縫って参加をいただきましたが、そのときの感想などをお聞かせ願えたらと思います。

### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

### ○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

桜山の整備については、その説明の場で新町の区長さんがるる御説明をされておられました。それを伺いながら一緒に登ることができ、本当に有益でありました。本当に先ほど議員からもありましたように、例えば、生コンの話であるとか道路整備、全部手弁当でやってい

ただくということ。そして、その道、足元をきちんと整備することによって、もともと魅力ある桜山がさらに魅力が増していたということ。そして、あのときはたしか天気もよございました。雨が降る直前でありましたけれども、非常に紅葉がきれいで、これは物すごく見に行って、そして皆さんと一緒に歩いて、本当にいいところだなと認識をいたしましたので、まちづくり協議会並びに武雄町民の皆さん、そしてお越しになった関係者の皆様方に市民を代表してお礼を申し上げたいと、このように思っております。

#### ○議長（杉原豊喜君）

間もなく5時になりますが、本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長させていただきます。13番前田議員

#### ○13番（前田法弘君）〔登壇〕

5時過ぎまで本当に皆さん御多忙の中、ありがとうございます。もうしばらくおつき合い願います。

これがそのときの写真であります。（写真を示す）今回の参加者は100名、これはまちづくり協議会の会長さん、そして新町の区長さん、松尾主事、公民館主事、一生懸命働いておられました。――の写真であります。何枚かここにありますので、紹介がてら行きます。

100名程度の参加でありましたが、ちょうどこれが弘法大師宝塔の坐像の下のところの写真です。（写真を示す）もみじが本当にきれいであります。

それと、これがちょうど天満宮のところに行く手前の少し広くなったところであります。

（写真を示す）ちょうどこの4階のバルコニーから桜山を見ますと、大きなクスノキが1本あります。その両サイド、約150メートルぐらいを先ほどの生コン整備をして道をつくったわけであります。中には、若干足元が悪いところもあります。危ないところもありますので、十分注意してくださいということも言っておりますし、こういう休憩所、これはちょうど天満宮のところだと思いますが、休憩所を設けて、ベンチもこれも間伐材を使ってつくったやつを設置しております。

本当にもみじロード、もみじのトンネルと言ってもいいぐらいのすばらしいところあります。ぜひ皆さんも一度というか、もう今もみじは大分過ぎておりますが、またいつかのときにぜひ家族で、そしてお孫さんを連れて歩いてみてください。お願いします。

今回、武雄町まちづくり協議会は720万円の交付金をいただきました。そのうちの約半分ぐらいを使ってこういう整備をしたわけであります。このほかにも防犯灯を10灯ほど別に設置もさせていただきました。もちろん、あと400万円ぐらいがあるかと思いますが、それは春まつりに使っていきますし、今回は散策路の実行委員会ということで行いましたけれども、次回、今度は春まつりの実行委員会ということで、ほかの武雄町の議員さんたちも一緒に活動をしていただくようになっております。

武雄町だけに限らず、各町のこのような今度の交付金をいただきましての活動が行われま

したが、今後こういう大金ではなくても、この協議会を維持運営するためにも何らかの援助、また支援をいただけないかと考えますが、どのようにお考えでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

交付金を出させていただいている以上は、各協議会が行われた事業であるとか、あるいはその計画についてきちんと私どもも検証をしたいと思っております。その上で、私どもといたしましては、これ財源の問題があります。したがって、議員が御指摘のとおり、財源にはかなり限りがありますので、これについては今のところ——財源がないと出せんですもんね。ですので、ちょっとどうしようかなということ、今の税込、国じゃありませんけれども、税込であるとか、さまざまなほかの生活に今、直接お困りの方々も多数いらっしゃいます。そういった方々にやっぱりきちんと温かい目を注ぐ必要があることから、そういった総合勘案をさせていただきたいと思っております。

いずれにいたしましても、今回のまちづくり交付金に次ぐ新交付金につきましては、いろんな諸条件、そして税込等の見込み、そして今度の新しい本格予算等々の中で方針を出していきたいと、このように思っております。いずれにいたしましても、武雄町まちづくり協議会を含む各協議会は本当によく頑張ってくださいしております。そういった中で、やっぱり私自身としては、僭越な言い方になりますけれども、伸ばすべきところは本当に伸ばしていきたいということを思っておりますし、これこそが私は、市が配分を決めて事業を行うということよりも、協議会がその責任を持っていろんな事業を行うということが地方自治の本旨だと思っておりますので、そういう理念は有しておることだけは申し添えたいと思います。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ぜひ新予算の中でも、こういう大金でなくても、運営をする形の助成でもといただきますか、とにかくそういう支援をまた続けてお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

次に、武雄町まちづくり推進協議会の要望ということで質問をさせていただきます。

11月4日に行政との要望書に対する意見交換会というものが市役所の会議室で行われました。大きく14項目ありました。これは、理事はもちろんのこと、各区の住民の皆さんに意見を聞いて、そしてその中で多かった要望、そういうものを絞りに絞って出されたものであります。

当日、ほとんど——ほとんどというよりも、すべて市長がプロジェクターを使ってお答えをいただいておりますが、そのとき、そこに参加をしておられる人たちはもちろん聞いておりますし、わかっておりますが、公民館報でもそのときのお話が載せられております。この際でありますので、この中で何点か、ここでまた改めて要望事項への回答といえますか、要望事項への答え、お話をいただければというふうに思います。

まず1番目には、案内板等の設置についてであります。

観光地にふさわしい名所や建物などへの道しるべとなる案内板などの設置をぜひ検討してほしいかどうかということであります。

そこでお聞きしたいのは、観光案内板を設置するというのは聞いております。予算も上がってはいはずでございます。21年度のそのための予算というのは幾らあるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

21年度の予算でございますが、これについてはまちづくり交付金、これは都市計画の区画整理会計の中の予算ですけれども、そこに標示板設置に対する工事費が300万円計上をしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

これは今幾らぐらい使われておるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

これについてはまだ執行をしておりますが、今回新しく駅が完成しておりますので、駅の看板と、それからそこから温泉のほうに行く、そういう誘導看板、そこら辺について今つくるように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

もう随分昔から武雄の温泉通りというか旅館街、そういったところへも行く道がわかりづらいつか、そういったことも聞きます。私もよくまちに——まちにといいですか、まち中は、「武雄ちょっとわからんもんね」という話を聞きます。そういう苦情とか、そういったものは別に観光課とか、そういうところには上がっておりませんか。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

先ほどの答弁で追加をしたいと思いますが、もう一つは、高架も完成しましたので、郵便局から温泉に行くその入り口、そこら辺についても標示板の設置をあわせて考えたいと。駅から行く分と、それから郵便局から入る、そこら辺について設置をしたいと。

それから、看板等について直接苦情等はございませんけれども、今現在うちのほうでサイン計画なるものを策定するようにしておりますので、そこら辺、それから景観計画との整合性をとりながら、今後そういう看板の設置については考えていきたいというふうに考えます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

今後の計画というのは、また今度聞こうかと思っておったわけですが、もちろん今後そういうことを計画しておられるということで、その300万円というのは今年度内に使われるのでしょうか。今おっしゃった郵便局の角だとか、今おっしゃったことにその300万円というのをお使いになるのか。

それと、続けてであります、来年度はどの程度の予算をかけて、そしてそういうものを整備されるということをお考えなのか。それとサイン計画ですね、計画なるものも今年度の予算で立てられるのかお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この予算の300万円につきましては、サイン計画を策定してから、その計画に沿って支弁をしたいと思っております。そのサイン計画に沿って支弁をいたしますので、可能ならば年度内、しかし、ここはきっちり詰めたと思っておりますので、ひよっとするとちょっと繰り越しになるかもしれませんけれども、いずれにしてもサイン計画の策定を待って支出をしたいというふうに思っておりますし、来年以降というのは、この当てにしておりますまちづくり交付金が国所管から、黒岩議員から御指摘のあったように一括交付金になっていくということに――もとい地方所管の補助金交付金になっていくと思われておりますので、その本体のまちづくり交付金がどうなるかということも含めて、今幾らになるかといったことについては、その答えを持ち合わせておりません。

いずれにいたしましても、私たちとしては、その予算がある。補助金があるなしにかかわらず必要なサインの整備を進めていくと。一流の観光地にふさわしい、そして市民に親しまれる観光地と思っていただくようなサイン整備を進めていこうと、このように思っております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

私もまち交の関係を心配しておりました。恐らく来年もその交付金を利用してということは以前にも聞いておりましたので、さあこれからどうなるのかなという心配をしておるところでもあります。

ぜひ苦情の出ないようなというよりも、入りやすい、来やすいまちですね、案内といいますか、そういうものをサイン計画の中で練っていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ここには新聞でありますけど、「宿泊客獲得 市が本腰」、「武雄の観光、日帰り客は増えたけど」という新聞切り抜きがあります。（新聞を示す）こういうお客さんがふえるということはマイカー、もちろん団体バスで来る方もたくさんおられるようになるわけです。ぜひその方たちにわかりやすい表示をしていただくようにお願いします。

また改築、JR武雄温泉駅完成ということで、ここにも先ほどの答弁にありますように、これができたら次に行くよということは何度となく聞いておりますので、速やかにつけていただきたいというふうに考えますので、よろしくお願いいたします。

次であります。武雄町公民館のことではありますが、このことにつきましては、せんだってより何名かの方が質問をいただいておりますし、お答えもいただいておりますので、これはお尋ねをしないことにします。

次に行きまして、公園整備であります。

市内の公園の整備予算は毎年どのくらいぐらいあるのでしょうか。公園のトイレの数もあわせてお尋ねをします。

**○議長（杉原豊喜君）**

松尾まちづくり部長

**○松尾まちづくり部長〔登壇〕**

公園整備、都市計画課の予算としましては、大体年間1,000万円を持っております。あと支所が両支所ありますが、両支所合わせて昨年度は3,900万円、今年度は3,300万円という予算でございます。

すみません、それから、トイレの数でございます。トイレの数は都市計画が管理しているトイレにつきましては10カ所、そして山内支所が担当しておりますのも11カ所、それから北方の支所で担当しておりますのが3カ所ということになっております。計の24カ所でございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

公園の要望書の中にある公園の問題は、公園の整備について、丸山公園、2番目に桜山公園、3番目に白岩運動公園とあるわけです。この丸山公園は別として、この桜山公園、そして白岩運動公園、これは両方ともトイレに関する要望でございました。

まず、白岩運動公園に、競技場の下駐車場に、あの広いところありますよね。あの駐車場にトイレの設置をしてほしいがどうかという要望があってありました。いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

白岩運動公園のトイレにつきましては、先日市長が答弁いたしましたとおり、白岩全体の整備計画を立てるということで、まずみんなのトイレという形での改修をしたいという計画でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁を補足いたします。

みんなのトイレをつくる。それは先ほど答弁したとおり、整備計画に沿って行くと。それと、やはり毎日毎日白岩が満杯ではありませんので、そういうイベントの多寡に応じて、この前もこの議会でも申し上げましたけれども、仮設のトイレをきちんとつくろうということ。そして、女性の方が非常にお困りでありますので、女性のトイレの割合をふやそうということとを答弁させていただいたところであります。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

仮設のトイレということでもありますので、そのイベント事のそういうこともお願いします。

その手前にあります桜山公園の要望も上がっていました。人が多く集まる場所には、駐車場とトイレは必要と思われる。ぜひ公園内か付近に設置してほしいがどうかということでありますので、このことについてはどのようにお答えになったかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げます。

本件に関しましては、武雄温泉株式会社の社長さんであるとか、商工会議所であるとか、まだ非公式ではありますがけれども、さまざまな協議を進めております。場所があれば観光地にふさわしい、そして楼門のデザイン、意匠にマッチする、できればかわらを備えたトイレ、公衆トイレをしたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、準備等については今民間サイドで行っていただいておりますので、それを踏まえて私たちも応援をしたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ぜひお願いします。今あそこの温泉の売店の右端のところに温泉さんのトイレを利用させていただいておるわけでありまして。ぜひそういうところ、あその手前のところも最近ホテルが解けましたですね。そこをかうとなれば、また大変なお金がかかりますでしょうし、いろんなことを今民間の方が考えていただいているということでもありますので、ぜひ市長、市もそれにお手伝いができるようにしていただきたいと思っております。

次に、通学道路という要望も上がっております。

まず、教育委員会にお尋ねするというか、その前に、クエスチョン8のところに道路の整備について、通学路となっている武雄小学校の南側と東側の道路が狭いため、事故など危険性が高いので拡幅を行ってほしいがどうかという質問でありました。これについてはどうふうにお答えを。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

確かに、小学校の南側の道路、これは都市計画決定で拡幅計画があるわけですが、どうしても家屋の密集地ということで整備が進んでおりません。それで、予算的にも今事業に入るとことはとても無理な状況でございますので、地権者の了解が得られたら局部的改良で対応したいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

すみません、よくわからんとですが、局部的改良というのはどういうやり方でしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

学校の南側の道路というのは離合可能な道路と思っております。ただ、東側の道路が離合



がちよっと不自由な道路でございますので、あそこの道路については、今通学時は一方通行みたいになっていますが、あそこについては地権者の同意が得られたら離合できるような場所をつくる局部改良ということを考えています。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

今あそこの道路のところ、南側の道路はポールが何メートル置きかにずっと立っておりますよね。その前は一段上がった歩道というか、底ぶたのついたところの道路になっていましたよね。それがなくなってポールを立てて、今何本か置きにポールがない。ないがおかげにそこで離合ができると。車側からしてみれば、幾らかは通りやすかろう。歩行者から小学生も含めて、歩行者からしてみれば安全ということが100%守られているかというのはどうかと思います。しかし、あの道路を広げるということになれば、おっしゃるとおり莫大な、まだまだ時間もかかるのではないかとは思いますが、そこで教育委員会にお尋ねをします。

各学校の通学路の安全対策というのはどうなっているのでしょうか。危険箇所とかそういったものについては委員会としては把握をされているのでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

教育委員会といたしましては、各学校でPTA、育友会と協力をしていただきまして、校区内の危険箇所の把握をしていただいています。校区内の危険箇所、通学路の安全を点検して、通学路のマップの作成、あるいは危険箇所のマップなどを作成していただいているところであります。これをもとに各学校で作成したものを活用して児童・生徒への周知、指導を行っているところであります。

また、交通安全教室等で児童・生徒への安全意識の向上、こういうものも図っているところであります。

それから、各学校より提出されたスクールゾーン、あるいは安全マップ、ハザードマップ、こういうものについての説明、それから学校訪問等のとき、学校長からも説明を受けているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

学校長からの説明で把握をしているというお答えでございます。

その把握をされた危険箇所、またそういう改修、改善を要するものについてはお願いと言のかな、要望と言のかな、そういうことはされておりますでしょうか。またそれはどちらに

されるものなのでしょうか、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

要望等につきましては、育友会、PTAから、町内の各団体等、例えば、交通安全協会であるとか防犯協会である、そういう団体をお願いをして通学路の安全という形をお願いをさせていただいているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

市に要望しているとおっしゃいましたね、市はどうされているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

市としましては、各町の交通安全協会のほうに、毎年8月から9月にかけて道路の危険箇所調査を依頼します。その上がってきました結果につきましては、今度はそれぞれ関係部署にその対応方についての回答を得るように調査をいたします。最終的にはそれぞれの部分を整理をしまして、警察なり交通安全協会なり公安委員会なりに要望書を提出し、その回答をもって、またそれぞれの各町の交通安全協会のほうに回答をして対処していくというふうな手続をとっております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

改修、改善、要するに道路の改善だとか安全対策の改善だとかいうものが上がってきたときには、何らかの予算措置をして、その安全対策をどちらの課がされるのかわかりませんが、されているということによろしいですね。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

調査の結果で関係する部署に、その対応方はお願いいたします。予算が必要であれば、その関係部署から予算措置をしていただくと、予算要求をしていただくと。それと、先ほども言いましたように警察、公安委員会で必要な部分についてはそちらのほうに要望書を提出するというふうなことで対応しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そうしますと、この南側の道路のずっとポールが立っていますけれども、あそこら辺も要望があれば何らかの安全対策をとられるということによろしゅうございますか、そういうふうに受け取ってよろしいですか。

○議長（杉原豊喜君）

大庭政策部長

○大庭政策部長〔登壇〕

先ほど言いましたように、関係課と協議をしまして、それはもうすぐできるものは、すぐに対応できますし、そういった用地交渉等の必要な部分については、また別途計画を立てながら対処するということになろうかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ぜひ計画を立てて、この安全対策もお願いしたいと思えます。

次に、通りの景観であります。

クエスチョン7、温泉通りの景観についてということであります。

温泉通りの景観を美しくすることは重要であります。電柱を除去し、地下埋設方式にしてほしいが、防災面からも有効であると考えられるかどうかという要望でございました。どういうふうにお考えかお答えをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

温泉通りの電柱の地下埋設でございますが、これにつきましては11月4日のまちづくり推進協議会のときの回答と変わっておりませんが、地下埋設にはメートル当たり大体30万円から40万円近くかかります。両サイドに電柱がある場合は、メートル当たり60万円とか70万円とかいう数字になるわけです。それだけの予算がかかります。あそこが大体温泉通りで250メートルぐらいあるわけですが、それを掛けてもらったらわかるとおり、とても今の市の財政では無理だということから、上空、電線の横断線の改良、横断線をうまく廃止すれば、ちょっとは見覚えがよくなるんじゃないかということから、今その横断線を整理したいという考えであります。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

整理したい——したじゃないんですね。整理したい。未来形ですね。

県事業として、路面や両側電柱整備が一応完了しておりますので、上空配線などの整理に取り組み、すっきりした空間の確保を目指しますと書いてありますね。そうですね、したいですね。速やかにお願いをいたします。

次に、街路樹の9のクエスチョン10、街路樹の植えかえについて。

駅南口通りは落ち葉の時期に歩行者が滑って危険、地域住民が掃除に困っている。イチョウの木をほかの木に植えかえてほしいがどうかという要望が上がっていますがいかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

あのイチョウの木をどうして植えたかというところから出てくると思いますが、あのイチョウの木に決めた理由といますか、これは駅南部、あの一体の区画整理が43年から50年まであったわけですが、そのときの整備の段階で地元と協議して、地元からイチョウの木にしてくれと。夏は緑、冬は落葉して日が差す。こういうところからイチョウがその当時は一番人気があったわけで、イチョウの木にしてくださいということでイチョウを植えたという経緯がございます。

それで、このごろ、時代も変わりまして、落葉、その葉っぱでいろいろ苦情があります。それでもって市としましては、極力剪定をして、落ち葉を少なくするように努めているというところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

天神崎白岩線、西浦天神崎線、そこにイチョウの木が186本立っておりますね、沿道ですね。沿道に186本のイチョウの木が立っておるわけでありまして。確かに区画整理事業のときに住民が要望したのかどうなのか、そこは調べがついたんですか、住民が要望したということはもうはっきりしたんですね。一度調べてくださいということをお願いしていましたが。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

その件につきましては、その当時区画整理を全般取り仕切っておられた私の先輩である当時の部長にお尋ねして、地元協議の結果、地元からの要望でイチョウを植えたということを知っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

本当真っ黄色で、上田議員もちょうど天神のあそこのお店のところの前にもイチョウの木が植わっています。本当に11月の中旬過ぎぐらいかな、きれいでした。県道のところもきれいでした。マルキョウの前の通り、あそこもきれいでした。ちょうど落成式の二、三日前、風の強かった日ですよ、あの日は風が強かったですもんね。そしたらちょうどあそこのいわゆる天神崎白岩線を通っているときに、それはイチョウがぱらぱらぱら舞って本当にきれいでした。きれいでしたというのは客観的に見てですよ。

このシーズンだけですけれど、毎朝毎晩イチョウの葉っぱを掃除して、中にはもう腰の痛うなったと言う人もいます。もちろん、もうそれが決まったのは、30年前ですかね。そういうイチョウの木が、当時はイチョウの木がよかったですね。だけど、そういう木を選んだわけですから、それを植えかえるというのは大変難しいことかも知れませんが、今はその剪定もしてもらっています。がしかし、全部が全部剪定に回す予算がありません。何本か置きとか、ことしはこの街路、来年はこの街路というふうに計画を立ててやっていただければおりますが、なかなかそこに住んでいる者としては大変労力が要るものであります。

もちろん、掃除もしてもらっています。ちょうどこのイチョウの盛りのころ、道路の清掃を管理されて、業者の方もされておった通りもありました。本当に感謝をいたします。しかし、片一方、朝晩イチョウの葉っぱを掃除されている方にも本当に感謝をいたすところであります。

ちょうど12月の上旬でしたか、11月の下旬でしたか、マルキョウの前のところで交通事故があっておりました。車のスリップではなかったとは思いますが、歩道ももちろんですが——もちろん歩道でつるつと滑んさつ人はおんさつですよ、話を聞けば。でも、道路でそういうふうなことがあるかも知れない。

私もイチョウの葉っぱのいっぱいあるときに一遍実験しました。やっぱり、案の定さつと滑ったです。そういう不測の事態も起こらんと、もちろん交通事故の原因が何かであつて、それを導くものがそれだったということもあるかも知れませんが、そういう心配もします。何人の人も歩道で転んでみたりされておりますが、そういったときはどうなるんですかね。またそういうことも起こり得ると思うんですが、これをどう考えられますか。

○議長（杉原豊喜君）

松尾まちづくり部長

○松尾まちづくり部長〔登壇〕

落ち葉については、その周辺の人たちに掃ってもらっているという状況で、大変感謝しております。

確かに、その葉っぱが原因で交通事故が起きるといふことであれば、道路管理者である市

の瑕疵という形になるわけですが、今後、道路パトロールを少し回数をふやしまして、そういうところについては市で落ち葉を掃くと言うのですか——をやっていききたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

これは何度も言っています。きょう初めて言ったわけではありません。けどね、このことが住民の方がこのことを思い始めた、言い始めたというのは、何かと言えば、これはすべて景観事業なんです。景観事業の中で、今景観形成事業というのがあってありますよね。そして、そのイチョウの、昭和も天神もやっておられますが、そのイチョウの根元にパンジーだとか、小さなかawaii花を植えて、この道路、この通りを、このまちを、この景観を美しいものにしよう。で、ちょうど駅前のところですから、たくさんの方があそこを通られます。ばさんと白岩のところまでね。

そういう事業を役所の都市計画のお声係で、区民全部がこの木はだれだれさん、この木の根元はだれだれさん、やり方はそれぞれ違うでしょうけれども、そういう形で、それを思う心、愛する心というものがそこで出てきたからこそ、そういうイチョウだとか、それにも反応を思い始めたということなんです。これは逆に返せば、そういうふうに都市計画が今やっている。それがいい結果だ。結果的にそういう感情が生まれてきた。そういう思いが生まれてきたということのあらわれじゃないか。これはうちの区長さんもおっしゃっておいりました。それぞれ住民の方たちも、それは大変くさんと、ごっといごっとい掃除せんばいかん。しかし、大変ばってん、その大変の中にもそういう思いが出てきて、お互いに——もちろんボランティア袋ですか、なるものがありますよね。こういうシールを張ったごみ袋です。これは環境課に行けばもらえます、行けばね。やっぱり行かんばですか。このシーズンになれば、もうこういう落ち葉が落ちるといのはわかっているわけですよ。だからそういうこと、お互いにそういうふうな思いを一緒にしようという、もちろんそういう、何というかな、通りを守るそういうボランティア団体というか、ボランティア組織なるものを一緒に組織してもいいでしょう。そういうことを進めていくためにも、ぜひやっていきたいし、こういうものも結局、取りに行くとかいうのじゃなくて、そこはちょっと時間を費やして、大体木1本に30枚から40枚ぐらい要りますよ。それは幾らもせんですよ、普通。けど、あるところでは事業用のごみ袋にとか、生協から来るような白いビニールの袋にとか、いろんな形で処理をされていますし、今燃やせないですから、そういうことも今後考えていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

環境ボランティアのごみ袋については私からお答えします。

お気持ちはよくわかりますけれども、これは武雄町だけではないんですね、さまざまなところであります。したがって、これはあえて名前を申し上げますけれども、例えば、小池一哉議員におかれては、いや、これだけ要るけんが、ちょっとくんしゃいということで私のほうに電話があつて、環境課に来られたりしておられます。そういったことからすると、これは僭越かもしれませんが、まだ私はやったことはありませんけれども、ある意味これは政治家、議員活動の一環としてやられて、それをされると住民の皆さんたちは非常に、ああ、議員さんってこんなによかことばしよんさつということにつながるものだと思います。

もとより私どもといたしましては、全般行政ではそれは準備して、できることならば、お届けに上がるのが心のこもった行政だとは思いますが、何分そこまで、例えば、土日であるとか、いろんなところで手が回らない部分も多々あります。環境課頑張っております。そういったことで、ぜひ議員さんの議員活動の一環としてしていただくと、私は非常にいいのかなと、このように私も自戒を込めながらそのように答弁をさせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ここであえて私も言う気持ちはありません。私もこれを配ってみたり、イチョウを拾ってみたりしております。わざわざこれを人に宣伝してどうこうと言うつもりもないし。

そういう気持ちはないということで、今後新しくできる松原の通りにも、あの街路樹、当然今後植えられるでしょう。あれは県道ですけど、武雄市がする分もあるんでしょう。そのときにはこういう問題がないような、ちょうど農協の前のところに植わっておるやつがありますよね。まあ、そこの通りの人と一緒に決めていただければというふうに思いますので、よろしく願いしておきます。

次に行きます。事業説明に行きます。

事業説明というのは、その他のところでありましたね。重要な案件、例えば、市民病院、高校再編、維持問題などは事前に市民へ十分説明した上で議会へ上程してほしいがどうかということでもあります。このことについてはどのようにお答えいただいたのか。また、この気持ち、考えに関して、どのようにお思いかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私ども樋渡市政の根幹は、オープン、そして親しみのある市政ということで、さまざまな御説明をし、そしてさまざまな意見公聴をしてきたつもりであります。もとより市民病院に

関して申し上げますと、公式のデータのほかに非公式にも、もう60回、70回の説明も上がっております。

私どもといたしましては、よく説明が足りない、これは甘受をしたいと思っておりますけれども、十二分にやっていると。そして、あくまでも議会制民主主義であります。私どもの説明の最も相手方は、市民から選ばれ、そして負託を受けた議員各位であります。そういった中で、私どもは皆様方に御説明をする。そしていろんな意見を聞くということ。そして、説明責任の場合によっては、これは議員活動の一環として、ぜひ説明会を議員の皆さんたちにもお願いをしたい。

私は、議員さんの説明会にもたびたび訪れております。関係課も行きます。そういった中で、ぜひ私どもは市民から見れば説明をする側であると思っております。政治家はそういう仕事があると思っております。そういった中で、私どもも一生懸命やりますけれども、議員各位、あるいはこれは会派でもあるのかもしれませんが。そういった中での説明責任の一端をぜひ議員各位には担ってほしいと。今までされている方々もたくさんいらっしゃいますけれども、ぜひこれまでと同様、これまで以上にお願いをしたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

次に行きます。男女共同参画の意識づくりです。

この項目は、先ほど壇上でも言いましたが、DV防止対策についてのお尋ねであります。平成20年、21年の取り組み、またその実績はどのようになっていますか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

男女共同参画推進基本計画というのをつくっておりますが、平成19年度に策定して23年度までの5カ年の計画でございます。

大きく言いますと、1つ目に男女共同参画意識の醸成を図るための広報、啓発事業、それから調査研究事業、市政への女性の参画拡大を図るための取り組み、女性活動団体の支援としての女性団体活動補助金の交付、それとDVを含めた支援体制の充実ということで、今おっしゃられたDV関係につきましては、市の女性相談、市が開設しております女性相談と市内で民間がやっております相談、この2カ所で相談を受けております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

女性相談窓口を開設しているとおっしゃいましたね。その女性相談窓口の開設、この体制



はどうなっているのでしょうか。そのことで、相談する人にとって整備されているのかお尋ねをします。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

市の相談窓口の体制でございますが、嘱託の職員を1名雇用いたして、その補助員を1名雇用いたしております。1週間に2回程度開設いたしております。そのほかに、先ほど申しました民間でも曜日を変えてやられております。それぞれ問題を抱えておられる方が自分に合ったところに相談に行かれています。そのほかに、県のセンターのほうでも受けておられます。

そういうことから、県内では県の施設、それから武雄市の市が開設している施設、武雄市で民間が開設している施設ございますので、十分対応とれているかというふうには思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

年間何件ぐらい、年間といいますか、4月から始まったわけですから、相談件数などがわかりますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

市の女性相談の窓口に限って申し上げますと、4月から11月前で33ケースの相談があっております。これはケースと言いますが、1人が複数回来られますので、回数としてはもっと多い回数になろうかと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それで、相談に来られた方、その被害者といいますか、その相談に来られた方の対応などはどうなっているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

それぞれケース・バイ・ケースといいますか、相談窓口でお話をお聞きして、それで解決するケースもございますし、市のほうで保護、あるいはほかの施設へ紹介するという、そう

いうケース多々ございます。庁舎内におきましても、関係する部局、福祉、こども部、そういうところと連携しながらやっております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

そのケース、ケースによって違いますが、きのうも児童虐待ですか、デートDVなどのケースもお話がされておりました。先ほど言いますようにケースによって違いますが、そこに子どもさんがいたり、じいさん、ばあさんがいたり、それぞれのケースがあると思います。そういうときの、本来県がやるべき事業なのではと思うのですが、県のほうに送るにしても、また子どもたちを保護するにしても、その対応はされているのでしょうか。そしてまた、そのときの資金調達等もなされているのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

子どもさんがおられる場合、この場合は教育部と一緒に連携してやるということもやっております。県の児童相談所に相談するとか、そういうケース・バイ・ケースにあわせて我々としては十分対応しているというふうには思っておりますが、足りないところがあればさらにまた我々としても勉強していきたいと考えております。

資金面でございますが、生活保護で対応しなければならないケースというのもございます。それは生活保護係のほうにお願いしておりますし、ソロブチミスト佐賀西部、フレンズですか、基金をつくられて、どうぞ活用してくださいという申し入れもあっておりますし、現在までそれを活用されたという方は聞いておりませんが、民間ではそういう対応をされております。そういうケースがあれば積極的にその対応を受けられるということをお勧めしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

ずっと計画といいますか、実績、計画の中で民間との連携というお話もありました。この民間との連携というのはどういうふうになっているのかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

冒頭申し上げましたとおり、県での相談窓口、市、行政の窓口、民間の窓口と、それぞれ市内におきましては民間の窓口と曜日を変えて開設していると。これによって、なるだけ問

題が起こったときに、皆さんが相談できるような体制をつくっているということが1点。それから市が開設しています窓口には民間の有識者をお願いして相談補助員として活動していただいているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長答弁に補足をいたします。

これに加えて、国際ソロプチミストの佐賀西部の皆さん、そしてソロプチミストのフレンズの皆さんが非常にDVに対して造詣が深く、また勉強されておりますので、これは私個人では、組織ではありませんけれども、私個人といたしまして、野田会長、山崎会長を初めとして各メンバーの皆さんからいろいろ今教えていただいております。これに加えて、これは私自身でありますけれども、もうこれを、すみません、3年ぐらい前になりますけれども、東京に出張をした際に内閣府に寄ったときに、DV対策の調査官がいらっしゃいます。その方からさまざまなことを教わって、これは本当に難しい問題だなということを深く認識した次第であります。

いずれにしても、私は男性でありますので、いろんなことを、特に女性の立場から聞いて、それをやっぱり行政の政策に生かしていく必要があるんだろうなと認識をいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

このバッジがパープルリボンピンバッジというやつです。（現物を示す）このシェルターネットといいますか、DV相談室等に置いてあるそうでございますので、ぜひお買い求めいただいて、そういう基金づくりに協力をしていただきたいと思います。

ところで、そのDV等に対するこの部局には、どの程度の予算があるのでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

先ほど来御説明しています市の女性総合相談の嘱託職員、それと補助員の人件費等々でございます。それから、パンフレットをつくる予算、パンフレットといいますか、PR用の、そういうのを計上いたしておりますが、金額は今ちょっと持ち合わせておりません。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

市役所内にそういう相談所を設けてあるわけですね、どうですかね。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部理事

○角政策部理事〔登壇〕

場所については申し上げられません。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

それでいいのです。市役所内にあるとか、どこにあるとかいうのをもちろん私も知りません。ただ、電話番号だけを知らされているだけです。そうしないと、今行政の皆さんで、いろんなセクションでやっていただいております。しかし、どこでどう見つかるかといいますか、相談に来る人は恐怖の気持ちで来られるわけです。もうこれ以上の暴力は受けたくない。これ以上の精神的な暴力も受けたくないという思いで来られるわけです。そういう方を守る立場にあるわけだし、そういう方を守るためにも非常に神経を使う仕事だと思いますけど、よろしく守っていただきたいと思いますし、また民間と連携して、今おっしゃったソロプチの皆さんとも、また女性ネット、ひととネットの方たちとも一緒に頑張っていただきたいと思っています。

お尋ねをしておりましたので、ちょっとこれだけお尋ねしておきます。児童虐待は実際どのくらいあるのか、その対応をどうされているのかをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎こども部長

○藤崎こども部長〔登壇〕

お答えします。

児童虐待の状況でございますけれども、件数につきましては、平成17年度から20件の児童虐待が発生しております。内容につきましては、身体虐待14件、ネグレクト、養育放棄3件、心理虐待、暴言などですけれども、2件。年齢別につきましては、6歳未満が9人、小・中学生が10人、高校生が1人となっております。

加害者いたしましたしましては、母・養母13人、父・養父3人、母の連れ合い・知人3人ということで、経済的弱者にある母親が、その不安から子どもに手を出したり、放置してしまうケースが多いようです。

対応いたしましたしましては、発見につきましては、肉親や近隣住民、保育所、学校からの通報が多いわけですが、通報があつてからの対応としましては、市で事実確認を行いまして、情報収集いたしましてから県の児童相談所へ通報いたしているところでございます。その後、危険度の高い事例につきましては、家庭児童相談所の介入で一時保護というふうなことでございます。それ以外につきましては、ケース検討会等で対応しておるところでございます。

ます。一時保護の終了は、これは家庭児童相談所の判断で家庭復帰というふうなことであります。その後、ケース検討事例及び家庭復帰事例は家庭児童相談所ということで、その後は市のほうで家庭訪問を続けているところでございます。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

私の知り合いの住んでおられるアパートの中にも、そういうふうな明らかに児童虐待と思うとですけど、こがんこがんこがんですというお話を聞きました。女性の子どもがいて、男性は本来の御主人じゃないと。殴ったり、当たり前起きらんで学校にもやりよらんごたつですもんね。子どもはなかなか自分で訴えられんけんですね。先ほどの大人でも訴えるのが大変難しい、大変勇気が要る。そういう中で対応していくためには、やはり学校、現場も、またそういう民生児童委員さん方々も耳をダンボのようにして、また目を皿のようにして、ほじくるじゃないですけど、ちょっとでもおかしいものがあつたら気を配ってもらいたい。その方の話を聞いていて、非常に悲しくなってきたものでした。ぜひこころ辺、支援よろしくお願ひいたします。

それで、だんだんと少なくなってきたと思いますが、学校のいじめはどうなっているか、その対応はどうなっているか、よろしくお願ひします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

いじめの状況でございますが、学校で把握し、対応した件数として、18年度11件、19年度8件、20年度2件、今年度11月末現在で1件であります。これは対応した件数でありまして、いじめそのものはどの子どもにもどの学校においても起こり得るものでありまして、佐賀県で昨年度が118件という数字が出ておりますので、それから考えても数としては少ないわけでありまして、そういうことで、いわゆる認知して対応したかどうかは問われないといけないわけでありまして、その方針で指導をしているところでございます。

武雄市につきましては、これはいじめの問題に関する取り組み事例集ということで、佐賀県武雄市ではというのが掲載されております。それはこども部とかとの連携をしながら、学校だけじゃなくて、いろんな関係機関連携して対応が進んでいると、進みつつあるという取り上げ方をされておりますので、そういう面でまた対応していきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

よろしく願いしておきます。

次に行きます。

インフルエンザがあります。インフルエンザですが、これは福祉のほうでお尋ねをしたいんですが、このことでちょっとお尋ねをします。

インフルエンザに係る、学校の子どもたちは接種をする。しかし、そこにかかわる保健所とか、保健室とか、またそういうふうな施設の直接かかわる人たちもそういう危険性があるわけですけど、そういう方たちは簡単に予防接種は受けられんわけでしょうかね。

○議長（杉原豊喜君）

國井くらし部長

○國井くらし部長〔登壇〕

インフルエンザ予防接種につきましては、新型ということでワクチン数が足りないということで、接種の優先順位をつけております。まず医療従事者、それから妊婦の方、基礎疾患のある方、それから1歳から9歳までというふうに接種が可能になっております。それから、今後高校3年生相当の年齢と65歳以上の高齢者が接種可能になるというような形になっております。

現在接種されている数ですけれども、12月7日現在、50医療機関中26の報告が来ておりますけれども、医療従事者が824名、基礎疾患を有する人、これが791名、妊婦の方が123名、1歳から小学校3年生まで、これが698名、計2,437名の方が今のところ接種されております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

インフルエンザについては、学校、教育委員会にもお尋ねをしておりましたので、状況だけ教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

大変御心配いただいておりますインフルエンザでございます。

きょう現在で個人別に罹患した児童・生徒が、小学生が28.7%、中学生が25.2%、大体4人に1人がかかっているということであります。

ただ、学級閉鎖は、小・中学校179学級あるわけですが、179分の97学級が学級閉鎖、学年閉鎖等をしておりまして、うち5学級は2回目の閉鎖をしたというところがございます。小学校が125学級中75学級、2回閉鎖したのは小学校だけでありまして、5学級です。中学校は52学級中、20学級という状況でございます。

この機会をちょっとおかりしましてですが、対応として冬休みの登校を予定している学校

がございます。その点について御理解と御協力をお願いしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

13番前田議員

○13番（前田法弘君）〔登壇〕

これについては、小学校も中学校も受験というシーズンになってきます。そうなったときの対応もまたお考えいただきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

新幹線にきましては、何人かの方が質問された同じ質問でありますので外します。

戊辰の役戦没佐賀藩士慰霊祭について、これだけはぜひやっておこなうてはいけませんのでさせていただきます。

武雄ロータリークラブが先日、佐賀藩士54人を弔う慰霊祭がっております秋田へ参りました。昭和63年、秋田市新屋地区において、区画整理事業のため現地にあった佐賀藩士の墓が移され、葉隠墓苑として整備されました。慶応から明治と換言される戊辰の年、秋田藩だけが官軍側で孤立し、庄内藩地のほかの奥州列藩同盟郡から攻め入れられる中、秋田救援のため武雄からも1,000名の軍団が秋田に入り、3カ月間戦って攻防を繰り広げられました。

その葉隠墓苑というところで、その中の戦役の中で14名の武雄兵が選出され、それを祭られているのが葉隠墓苑であります。ほぼ10年ぶりですね、ロータリーの方たちで行かれました。市民交流の始まりだと考えます。

そこで、市長にも既にもう要望が上がっておると思いますが、民間サイドで市民墓参団の交流活動を展開したいと考えるが、市としても側面的な支援がお願いできるだろうか。秋田側では墓苑のある地元新屋地区や日の出町では、慰霊祭継続の意思が大変強うございます。市全体としては、近年武雄からの訪問が減っていたところでもあり、関心が薄れてきております。しかし、ことしは武雄から訪問したことで、個人的としてはあるが、秋田市長も慰霊祭に出席されました。交流再興のきっかけとはなり得ると思っておりますので、武雄市としても正式に市として関与していただければ、秋田の委員会再興の手助けになると思っておりますが、お願いできますでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先日、武雄ロータリーの実質的な責任者である花田さんが私のところにお越しいただきました。今までの経緯であるとか、さまざまなことを直接教えていただきました。花田さんに私から、これは本当に素晴らしいことですねということを申し上げたところ、花田さんも意を強くしていただいて、どういう支援がありますかねということを私が伺ったところ、ぜひ市長が秋田に行ってほしいということをおっしゃったので、私としては今度訪問団がまた秋田を訪れる際にぜひ私自身も参りたいと思っております。今まで民間同士の交流に、私が行

くことによって行政としての交流が加わると思っておりますので、ぜひ私も市民を代表してロータリーの皆さんと一緒に参りたい。やはりそのときに花田さんのお気持ちが非常に強くいまだに残っております。

そういった中で、私自身も、これは私事になりますけれども、秋田の前の市長さん、これは全国市長会長でありましたけれども、今秋田県知事であります。この方と個人的につながりもあります。そういった中で、ぜひ私自身のネットワークも活用していただいて、そういう心温まる交流の一助に私になればいいなと、武雄市長になればいいなと思っておりますので、そういった中で応援をしてみたいと思っております。

さらに加えて、そのときは観光協会であるとか、商工会議所であるとか、あるいはさまざまな婦人会であるとか、さまざまな関係のところにも花田さんと私になるかもしれませんけれども呼びかけて、武雄市訪問団のようになれば、本当にこれは先人の供養にもつながりますし、後世に引き継ぐよすがにもなるものであると確信をしております。

以上です。

**○議長（杉原豊喜君）**

13番前田議員

**○13番（前田法弘君）〔登壇〕**

今市長のおっしゃるように、市民墓参団としての実現、それもぜひお願いしたいと思えますし、今後とも市がどういう形であるにせよ、お手伝い、そして一緒になって秋田へ行くときが来ればいいかと思います。

それで、秋田のほうでは、こういう教科書ではありませんが、これは日新小学校というところの記念誌であります。（現物を示す）この中にも戊辰戦争のことが取り上げられております。武雄では、小学校、中学校を含めて、その史実、またそういう先人のことについてどういう教育をされておられるのか、またそれをどういうふうに扱っておられるかお尋ねをします。

**○議長（杉原豊喜君）**

浦郷教育長

**○浦郷教育長〔登壇〕**

今年度は、その意味で非常に大きな機会をいただきました。ケーブルワン様より、そのDVD、「葉隠墓苑～先人たちに想いを馳せて～」という寄贈を受けました。この寄贈を受けて直後、御船が丘小学校の6年生、それから武雄北中学校の1年生から3年生まで、私が知っているのはその両校であります。道徳の教材に書き直しをされまして、両校とも授業参観の折に実施をしております。そして山内東小でも社会科の歴史の学習で内容を紹介するなど活用したと。ほかの小・中学校でも何らかの活用をしたと思っております。誇りに思い、先人を大切に思う心という道徳のねらいで指導がっております。

歴史的な事実としては小学校6年生でやっと学習するぐらいですので、その背景を十分理



解するにはちょっと難しいかなという面もあるんですけども、ただ思いは伝わる授業を見ることができましたので、今後また進めていきたいと思っております。

[13番「ありがとうございます。終わります」]